

# 「偕行社とは何か」

について

稲村 孝司 陸自75

## 1 将来への希望

○陸軍将校及び陸軍の名誉回復の兆し(敗戦軍人は犯罪者扱いされた、されている現状が改善する兆し)

○大東亜戦争評価の兆し(占領政策の東京裁判史観が見直されつつある兆し)

## 2 要望

○陸軍将校及び幹部自衛官の会・偕行社の充実発展(旧陸軍、陸軍は旧も新もない。元幹部自衛官だけでなく現幹部自衛官も)

○英霊の慰霊顕彰事業の継続(殉職自衛隊員は防衛省が行っている)

## 3 歴史

○日清、日露戦争及び大東亜戦争等

の闘いの歴史は永遠(軍人の敢闘事実は戦史叢書等で後世に遺る)

○偕行社の歴史も永遠とすべき(水交会は現職も。名称は海軍からの継承)

## 4 偕行社とは何か

○陸軍将校及び幹部自衛官の会(近い将来幹部自衛官だけとなる)

○米軍等の退役軍人会(国家の機関として)を目指す会とすべき

5 偕行社のあるべき姿

○米軍等の退役軍人会(国家の機関として)の様な組織・会

○幹部自衛官の研鑽修養の組織・会

6 偕行社の名称の価値

○昭和20年の敗戦までは、全国各地に偕行社が存在した。幹部自衛官だけの組織・会となっても「偕行社」に代わる名称は有り得ない。

○陸修会と合同後は、偕行社(陸修会)の名称にすべき。

## 7 各地偕行会の存在意義

○護國神社での地位は、国会議員の次が偕行会、次いで水交会と高く評価されている。陸軍、海軍を尊重している証左であり、今後とも不変と思われる。

○陸上自衛隊及び退職自衛官の評価の高まりが感じられる。ウクライナ

国民の防衛行動から、自衛の戦争、正しい戦争も有ることを国民が認識した。

8 支部制度について

○中央の決定に従う(退役軍人会・国家の機関は中央集権となる)。

9 偕行社にまつわる思い出話

○弘前市の旧弘前偕行社は、みどり保育園であり小生と妻は卒園生であった。

○東部方面警務隊長として、憲友会(憲兵の会)と交流し靖國神社内苑の「憲兵之碑」維持管理について、偕行社で度々会議が開かれた。

○熱海の興亜観音の懇親会で、深山副会長と会話し、市ヶ谷台盆踊りでも話す機会があり、定年と同時に加入した。

10 偕行社の何を継承して欲しいのか

○英霊の慰霊顕彰(敗戦までは、国が行っていたが現在ではしていない。退役軍人会が出来れば復活すると考える)

○陸軍将校及び陸軍の名誉回復(東京裁判史観の是正)

11 何を申し送るべきなのか

○陸軍正史・戦歴

○陸上自衛隊の苦難の歴史と活動結